

# 第3回 稲敷市事務事業評価 外部評価委員会（未定稿）

日時：平成29年9月27日（水）午前10時～  
場所：稲敷市役所本庁舎 3階北321会議室

進行・時間	発言内容
1. 開会	
事務局	<p>それでは早速、評価のほうを始めていききたいと思います。進行のほうを、横須賀委員長によりしくお願いいたします。</p>
3. ヒアリング【午前】～都市基盤分野～	
1). 公共交通運行補助事業（担当課：政策企画課）	
担当課	<p>それでは、公共交通関係の事業の説明をさせていただきます。政策企画課長です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の説明員として、担当の企画係長及び事業担当を同席させていただいております。</p>
担当課	<p>それでは本市の公共交通の課題ということで、全体を通しての状況ですが、全国的に見ましても、本市のような人口密度の低い地域ほどモータリゼーションが進展しておりまして、本市の自家用車の保有台数を見てみますと、平成19年が7161台というものに対して、28年度では1万7700台、また軽自動車については、平成19年度に6857台だったのに対し、平成28年では1万173台というふうに、経年的に伸びているという状況でございます。</p> <p>一方で、平成27年の国勢調査で見ますと、高齢化率については31.66%という状況で、平成17年度では23.14%という状況でございましたので、かなり高くなってきているという状況でございます。こうした現状を踏まえまして、自家用車で外出がほとんどという状況でございますので、当然、外出による事故に遭遇するリスクというの、特に高齢者にとっては高まっているという観点からも、公共交通の利用環境を整えていくということが重要であるというふうに認識をいたしております。</p> <p>本市の公共交通の実態ですが、こちらの冊子の公共交通ガイドブックのほうを見ていただきたいと思います。こちらのほうを開けていただきますと、近年の公共交通についてということで、記載がされています。これは28年3月末の記載になっていますが、現在では、路線バスが4事業者で10路線、それからコミュニティバスが1事業者で3路線、高速バスが1事業者1路線というような状況になっております。</p> <p>これらに加えて、タクシー事業者が4社ございまして、さらに今現在、茨城県と近隣市町村の共同で、実証実験として稲敷エリア広域バスというものを運行しております。こちらは市内、江戸崎の駅から、ひたち野うしく駅に向かいます。牛久ルートと阿見ルートの2路線を実証運行で、平成29年2月から30年3月いっぱいまでの実証実験として、運行しているという状況でございます。</p> <p>現在の状況ですが、お配りしました3枚つづりの用紙のほうを見ていただきたいと思います。市内の主な公共交通の利用状況ですが、先ほど説明しましたように、市内では路線バスが4事業者で10路線ございます。そのうちジェイアールバスと、関東鉄道、関鉄バスを除いた3事業者の路線バスが市から補助を受け運行している状況です。</p> <p>利用人数については、こちらの表にあるとおりです。桜東バスにつま</p>

	<p>しては、28年度の利用実績で、3路線合計で83,832人、ブルーバスにつきましては4路線で36,039人、コミュニティバスについては、3路線で合計15,945人の利用があったという状況になっております。また、タクシー利用助成につきましては、平成28年度使用枚数については、19,410枚の利用があったというような状況になっています。</p> <p>次の資料3枚目のほうを見ていただきたいと思うのですが、それぞれのバス運行事業者およびタクシー事業者に対して、運行経費の補助という形で補助金を交付してございます。タクシーにつきましては、1枚当たり700円を上限という定額での助成になっております。バスの補助金の状況ですが、上からいきますと、桜東バスの補助金のほうが28年度の実績で、51,571,856円ということで、運行経費のうち77.8%が補助金というような状況でございます。</p> <p>次に2社目のブルーバスのほうですが、補助金額が42,471,528円、運行経費のうち補助金の占める割合は91.8%です。コミュニティバスにつきましては、補助額が19,917,314円で、運行経費に対する補助金の割合は86.8%というような形で、市内のバス運行につきましては、そのほとんどが市の補助金によって運行がされているというような状況になっております。</p> <p>なお、運行経費の補助についてですが、市内の事業者にバスの運行をお願いする際に、一応利用の促進を図るという観点から、通常の運賃よりも低い運賃の設定をしておりますので、その分補助金については高額になってしまうというような実態はございます。運賃を低く設定しても利用促進につながっていないというのが現状で、今現在、先ほど説明をしましたように、路線バスだけでも1億を超えるような補助金の交付をしなければならないような状況になっています。</p> <p>以上のような形でバスの運行をしているということですが、それに付随しまして、公共交通結節点維持事業としては、主に江戸崎駅の待合所の維持管理用の光熱費とシルバー人材センターのほうに委託した清掃作業のほうを行うという状況、それからバスの停留所、転向所等の土地の借り上げ等を行っているという状況です。</p> <p>地域公共交通対策事業としましては、主に市の公共交通会議を開催しまして、平成27、28年度で地域公共交通網形成計画の策定を行い、引き続き再編実施計画の策定に着手をしたという状況で、先ほど説明をしました市内の公共交通のあり方について、議論をしているというような状況でございます。</p> <p>大まかな内容は以上のとおりです。細かいところは、質問にお答えする形で説明をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員	この料金の設定というのは均一ですか。
担当課	いえ、市内のバス路線ごとに異なっておりまして、コミュニティバスについては定額の運賃、それ以外の桜東バスとブルーバスについては、距離に応じた運賃の設定というような形になります。
委員	例えば、子ども運賃と大人運賃の違いはありますか？
担当課	<p>市内のコミュニティバスに関しては、大人が200円、子どもが100円と別に分けてありますが、ブルーバスと桜東バスの距離制運賃に関しましては、もともとの運賃、通常のジェイアールバスや関鉄バスと比べると3分の1ぐらいの運賃で運行しているものですから、子ども・大人の設定はなしで、一律みんな安くということですが。</p> <p>このバスマップのほうでいくと、青色、ここがブルーバスが運行してい</p>

	<p>る路線で、ピンク色の路線が桜東バスで運行している路線になりますが、こちらの2社がやっている路線というのは、大手のジェイアールバスであったり関鉄バスがもともと走らせていた路線が廃止になって、それを使っていた高校生や小学生の通学がどうしようもなくなってしまうということから、旧東町であったり市のほうが運行補助を出して、地元事業者に運行を計画してもらってという状況で始まっております。そういった高校生・小学生の利用が主だったことから、運賃も安く設定したというところでは。</p>
委員	<p>この路線バスには、阿見を経由する、ひたち野うしく駅行きは載ってはいないんですね。</p>
担当課	<p>はい、そうです。このバスマップの作成は2016年。一方ひたち野うしく行きのバスは今年2月に運行開始しており載っていません。</p>
委員	<p>そうですか。これを見ると、競合する分も当然あるわけですよね。</p>
担当課	<p>はい。</p>
委員	<p>そうしたら、競合する部分で、バス事業者により料金に差が出るということになるよね。</p>
担当課	<p>同じ区間でも、例えばジェイアールバスが江戸崎駅から市役所までで、市のコミュニティバスも江戸崎駅から市役所まで、両方が来ているんですけども、料金は変わってきます。当然、コミュニティバスは一律なので200円なんですけれども、ジェイアールバスのほうでいくと距離制運賃なので、確か190円ぐらいで乗れると思います。ただ、時間帯が当然違うのと、あと、差がそんなにないので、そこに関しては特に、どこかからお話が出ていることはないです。</p>
委員	<p>そうですか。どうせ下げるんだったら、お年寄りと子どもだけを下げ、大人からはある程度普通に近い料金を取ったほうがいいのか、そういう議論はなかったんですか。</p>
担当課	<p>通常の大人の方ですとやはり車が主で、バスを利用される方がほとんどいなかった。ですので、利用されるとしたら、市外から来られる方がたまにいる程度だったので、その部分を下げたとしても、さほど運賃収入に大きくはね返ってくるわけではないというところで。だったら、みんなで使いやすくなるように、そんなに変わらないんだたらもう一律でいいだろうというところでは。</p>
委員	<p>考え方は2つあって。要するに、そういうところに配慮したバス路線ですよというのを強調するのに、そこだけ下げておくというのも1つの方法で、そういう方法を取っているところが何か所もあるよね。実際、数字が合わないのはどこもきっと合わないんだと思うんだけど。いわゆる実証実験で、いろんなことを言ってやっている事例が多いけど、この稲敷の場合には、これはもうある程度何年限りとかということじゃなくて、路線の見直しとかダイヤの見直しがあるんだろうけれども、やるよという前提は固めているのですか。</p>
担当課	<p>今、行っているひたち野うしくへの実証実験に関してですけれども、本市は鉄道の駅がないので、鉄道の駅に接続、1本で鉄道の駅まで行けるといふバス路線はどうしても確保したいところです。今、ジェイアールバスのほうで運行している土浦駅と、関鉄バスのほうの竜ヶ崎駅のほうが、常磐線に接続する路線があるんですけれども、やっぱり直線的に一番近い常磐線の駅、ひたち野うしく駅という要望が江戸崎地区から多いものですから、今、実証運行をしている、ひたち野うしく行きは阿見ルートと牛久ルートで2つに分かれているんですけれども、どちらかは何としても維持し</p>

	<p>ていきたいというところではあります。</p> <p>近隣市町村と一緒に共同運行しているものですから、その辺との兼ね合いで、当然利用者が多ければ続けていこうという話になると思いますので、そこを目指して今、県のほうと一緒に、利用促進のほうをいろいろと対策を打っているところです。</p>
委員	<p>外とつながっている路線はみんな単独じゃなくて、美浦村と一緒にとか、そういう形でやっているやつなんですか。</p>
担当課	<p>今、実証運行しているものに関しては、近隣の5市町村と茨城県の6自治体で、共同で行っているんですけども。例えば、阿見町が稲敷市のほうは利用者があまりいないので抜けますというふうになれば、稲敷市のほうと牛久市だけしか通っていないものですから、そこで話し合いで、じゃあうちのほうは続けましょうというふうになれば、続けられるとは思いますが。その辺は、当然、稲敷市のほうが単独で全部出しますよと言えば続けられると思うんですけども、たぶんそこまでの費用はかけられない状況になると想定されるので、その辺は今後の推移次第です。</p>
委員	<p>当面は、いつまでという考え方はないわけね。</p>
担当課	<p>今回の実証実験に関しては、一応、今度の3月までを区切りとしている。ただ、近隣市町村も県も含めて、それ以降も県のほうの補助金を入れながら、できるだけ長く続けられる方法を今考えているところです。当然、ジェイアールバスであったり、関鉄バスが運行している路線に関しては、民間バスがやっていることなので、これはもう単純に本当に利用者が減ってくれば、他の市内の路線と同じように廃線するという話が出てしまう。</p> <p>関鉄バスのほうは若干補助金が入っているけれども、今のところ両方何か持っている状況なので、できればこのまま維持できるように。民間事業者任せじゃなくて、市のほうも路線バスとジェイアールバスとかに接続をうまく合わせたりとか、その辺を注意しながら、両方一緒になって利用しやすい環境を整えていく必要があるだろうとは考えているところです。</p>
委員	<p>利用する人が、例えば病院だったらどこに行くとか、買い物だったらどこに行くとかいうことは、当然もう調査していると思いますが、どこで降りてどこで乗ってとかいう乗降は調査しているんですか。</p>
担当課	<p>はい。昨年度ですが今年の1月に国のほうの補助金を使って、市内全路線で1日丸々全ての便に調査員を乗せて、どこから乗ってどこで降りると、場合によっては乗っている人に聞き取りをしながら、どこが目的地だというのは、一応調査してありまして、データの方もまとまっています。それをもとに、現在走らせているバス路線に関しましても、当然乗らないバス停もあれば人が少ない路線もありますので、その辺をもう少し、この大量輸送のバスがいいのか、それとももう少し小型の輸送手段がいいのかは、公共交通会議のほうで検討しながら随時見直しは図っていきたいと思っています。</p>
委員	<p>これはどこも苦労しているよね。</p>
担当課	<p>うまくいっているところはあまり聞かないですね。</p>
委員	<p>タクシー等をデマンドに全部切り替えるようになるとすごい負担でしょう、きっと。これをいかに効率化するか、シミュレーションの繰り返しだと私は思っているけど。いろいろ聞くと、今言ったようなところで降りてどこで乗っての調査を繰り返して、ベースの時間帯の調整とか、いろんなことをいろんなところでやっているみたいだけど、なかなか数字の成果は</p>

	上がらないと。
担当課	本市の場合は、今、小学校の再編をしているんですけども。実は路線バスの乗客のほとんどが、小学校の児童もしくは高校生という状況なので、小学校の統廃合が進んで仮にスクールバスへの切り替えということになれば、路線バスを維持していくのはかなり厳しい状況になってくるのかなというふうに考えています。片や、市外の鉄道駅に接続している路線については続けていく必要があるので、その確保を図りつつ市内の移動手段を同様に確保していくために、新しい交通システムのほうも、交通会議のほうも含めて検討しないとならないだろうというふうな議論をしているところです。
委員	割とこの辺は、小学校のスクールバスと路線バスを共用しているところが多いの？
担当課	そうですね。一応、スクールバスとの混乗というものも含めて、教育委員会のとも話をしてはいますが、やっぱり教育委員会側としては当然、学校の児童・生徒の登下校を優先に考えたいというのがあります。
委員	そこが見直すべきところです。その辺はやっぱり、さっと決めないと。7時50分とか7時45分までに子どもたちを集めるでしょう、きっと、それは年寄りの通院時間よりはちょっと早いんだよね。だから、そこだけ違うルートで回らせて。ただ、それにだって誰でも乗れるようにするのが理屈だと思うよね。走っているけど子どもしか乗れないとかいうのも、おかしいでしょう。
担当課	当然、小学生はいずれ高校生になるわけで。そのとき、高校生になったときの交通手段のことを考えれば当然、完全スクールバスだと都合が悪いわけで。その辺も理解した上でまとめられればいいんですけども、ちょっと今のところ、そこまで形がまとまっていない状況です。
委員	利用促進と補助額の削減は、すごく矛盾するところがありますよね。そこら辺はどういうふうに考えているんですか。非常に難しいと思うんですけど。
担当課	運賃がそんなに高くないので、乗ってもらっても、補助額がそこまで下がるかというところとそれほど下がらないと思います。補助額を下げるには、実際の便数をカットするとか、経費面を下げないとたぶん下がってこないと思うんです。当然、今の段階で乗っていない路線というか、乗っていない時間帯等がありますので、その辺をちょっとうまく組み合わせることによって多少便数を減らすとか、人件費とかが減らせる。そういうのは当然、今後再編の中で進めていくと。 利用促進方法は、最初に幾ら補助金がかかる・かからないは関係なくて、まず乗ってもらうことからで、乗ってもらうことが公共交通で一番大切なことだと考えています。利用促進といいますが、どの程度その効果があるかは分からないんですが。小学生であったりお年寄りに対しての乗り方教室であったりとか、まずはそういう地道なところで乗る機会を提供して、それで一度体験してもらおうかというのは考えていてそういうような利用促進をまずは図っていききたいということです。
委員	江戸崎総合高校にちょっとお邪魔したときに、ちょうど帰りの時間で、先生にもお伺いしましたが、ほとんどが保護者のお迎えですね。びっくりしまし。あそこにバスが来ているはずなのに。
担当課	そうですね。今どこの高校もPTAのほうでスクールバスというか、PTAのほうの貸し切りバスで送迎をやっているところが多くて。江戸崎総合高校もそれをやっています。 しかし、今年に入ってスクールバスの利用者が若干減ったか、人数が減

	<p>ったんでしょけれども、それで値段、単価が若干上がったらしくて。</p> <p>それに伴って、路線で言うところの8番のピンクの路線、新利根から江戸崎に向かっていく路線なんですけれども、この路線バスに今まで高校生は2、3人だったのが、一気に江戸崎総合高校の生徒が15人ぐらい乗るようになったというような事例もありますので。たぶんそこは料金の兼ね合いと、あとは父兄の送迎も当然、朝だったら行けるけど、帰りは行けなかったり、そういうところもあると思いますので、高校の生徒のほうにも、できるだけ乗ってくださいますということを案内していきたいと思います。</p>
委員	部活をやっていない子たちの時間だったと思います。
委員	逆に部活をやっている子だったら、親の仕事が終わる時間に帰るようになってしまいますよね。例えば桜東バス（ピンク色の路線）だと、7時台とかというのは、子どもたちが乗車してスクールバス状態なんですか。
担当課	桜東バスの8番の路線で言うと、今一番乗っているのが部活をやっていない子なので、もう少し早い時間帯です。
委員	6時40分があります。
担当課	朝はそうですね。
委員	朝も帰りも。たぶん帰りだったら3時、4時とか、そんな感じ。
担当課	そうですね。4時台のバスには高校生が一番乗ると。部活をやっている子は、やっぱり親の送迎になってしまう場合が多いところですね。
委員	小学校は、統廃合等でまた遠くなるんですか。
担当課	<p>小学校は、2年前に江戸崎小学校（江戸崎地区）で再編があったときは、路線バスを利用してもらって、小学生が通えるような形で。君賀小学校（君賀地区）と、あと鳩崎地区の路線バスを利用してもらって、通学に使ってもらっている状況です。東地区の東小学校に関しては、もうジェイアールバスが走っている頃からずっと、小学校の登下校にはバス通学が利用されている状況であったと。現在でも桜川地区の5番と6番の路線、古渡小学校と阿波小学校は、この路線バスを使って登下校してもらっているという状況です。</p>
委員	南小が閉校になりましたよね。そうすると、9番のこのルートは今どうなんですか。
担当課	<p>この9番のルートは特殊です。南小学校があるときは、まず南小学校の生徒を運んで、その後この9番のルートは西代地区を1周回ってまた戻ってくるんですけれども。その西代地区を回るときに、西代地区の小学生を拾って東小学校で下ろすと。その後、今度は西小学校のほうに向かって、脇川辺りの小学生を拾って西小学校に運ぶという、1便で3つの小学校が使っていたと。</p> <p>そこで南小学校が統廃合になって、今、スクールバスになってしまったところがあるので、南小学校の生徒は使わないんですけれども、東小学校の西代地区の子が使っている状況なので、今はまだ維持していますが。ただ、西代地区の生徒は別の路線でカバーできる部分もあるので、その辺はちょっと時間帯の調整をしながら、需要がなくなってきた、もともと9番の路線は土日は運行しないような、完全に小学生を対象とした路線だったので、その辺はちょっと別の交通手段とかを検討していく必要があるかなとは思っています。</p>
委員	そうですね。

委員	<p>今、高校生のスクールバスですけれども、スクールバスとして運行していない高校が、竜ヶ崎第一、竜ヶ崎第二、竜ヶ崎南高校ですよ。取手もないですけど、取手は遠くに離れていますが、スクールバスが出るようになったので。あと、私立もほとんどスクールバスが乗り入れて、朝1便、帰りは2便。基本、部活をやっている子どもは親が送迎している形ですよ。江戸崎総合高校もスクールバスでしたが、それで運賃が、関鉄路線であると関鉄バスの運賃で払っているんです。そうすると、江戸崎総合高校の子どもが、今言った路線で通うというのはすごくあることだなと思いました。今、十何人も乗っていたというのでちょっとびっくりしてしまいました。あと、西代に向かう桜東バス、統廃合でなくなった南小。平成17年度は利用者が多かったんですけど、28年で激減してしまっている。</p>
担当課	<p>確かに、この路線に対しては当初3万2000人利用者がいたのが、今は7000人という状況で。この減り具合が異常だったので、たぶん22、23年のころまでは通常の生徒が減っていくのと併せて、一部、ちょっと遠い方を別のスクールバスに乗せたりで、若干の自然減かなと思っています。</p>
委員	<p>それと、高齢化率もこの10年間ですごく上がっている。これからさらにもっと上がっていきますよね。お年寄りが病院を利用する場合、「こういう交通手段で済生会に行くんだよ」と言って、利用できるお年寄りはいいんですけども、なかなか利用できない、1人暮らしで介護、要支援ぐらいのお年寄りだと、ヘルパーとかを頼んだり、あとは高齢福祉課で出ている。</p>
委員	<p>タクシー利用券を利用したりして、歯医者をやりに終わったとかいうようなことで利用していると思うんです。でも、たぶんそこまでいつも通院状態じゃないけれども、ちょっと医者に行かなくちゃいけないという場合は、タクシーとかの利用率がこれから上がるかなと思いました。この資料でもタクシー利用券の利用枚数がだんだん上がってきているので、高齢者はタクシーの利用のほうが多いのかな。それに、だんだん高齢になると車の運転も控えるようになると思うんです。</p>
委員	<p>私が住んでいる地域は、定額料金200円で、今この説明にあったように実質的にスクールバス化していて、見ても一般の市民はほとんど乗らないということで。私たちも近所の人たちを集めて、市役所とかに来るときに、一度バスを利用したことがあります。でも帰りの便がなくすぐ帰れないんです、だいたい1日がかりになってしまう。</p> <p>今後の将来の展望を見ると、担当課としては縮小していく方向で考えているんだよね。先ほど担当課長のほうから話があった自動車の保有台数を見ても、2万8000台近くだと、計算したときは、単純でも市民の2分の1ぐらいが自動車を持っている、1人1台となってしまうわけですから、そうすると若い人は絶対的に利用しないと。私たちは、今から高齢化が進んでいって免許証を返納したときに、果たしてじゃあこのルートがなくなったとき、時間的にうまく合えば利用しやすいんですけど。本数を増やすということはなかなか難しいと思うんですが、そういうことを含めて、検討したほうがいいと思います。</p> <p>あと、8番と12番の路線で君賀小のバス停がありますが、今説明があったように、8番は距離制、12番は均一料金を採っているわけですけど、12番は200円で、8番は江戸崎から幾ら掛かるのか？</p>
担当課	<p>200円はしなかったと思います。</p>
委員	<p>安いですね。</p>

担当課	12番路線の上限が160円なので、そこまではいかないかとは思いますが。
担当課	この12番と8番は、運賃が均一か距離制なので乗り方も若干変わって、乗車方法についても整理券を取るとか先に払うとかいう、その辺も変わってくるので。やっぱりお年寄りであったりとか、地域でのバスの乗り方教室はぜひ進めていきたい。今おっしゃっていただいた乗換割引は確かにおっしゃるとおりで、今までいろんな事業者が入っていたので、なかなかうまくいかなかったんですけども、ここはぜひ検討していきたい。
委員	市役所のような場所に用事がある人は多いので、そういった部分で路線や運賃もちょっと考慮していただける部分があるといいのかなど。龍ヶ崎のコミュニティバスは全部、龍ヶ崎駅と市役所に必ず寄るんです。全てのルート、循環ルートと、5ルートがあるんですけど、全て駅と市役所に寄るような形を取っています。今後の再編計画のときにでもちょっと考慮していただければと思います。よろしくお願いします。
委員	稲敷市の最初のお話で、高齢化率のことに触れられていましたが、例えば独自に送迎している病院がありますよね。あれは、お宅の玄関先の所とか場所を決めて乗っていただいて、ぐるぐる回っていますよね。お年寄りにとってはすごく楽なようです。おそらく、高齢者に対しての路線バスを考えるよりも、バス停に行って、どこか買い物に行って、それも大事なんですけど。例えばそういう病院にそれこそ補助金を出すとか、それを促進してもらおうとか、将来的にそういうことは考えたりとか検討されたりとかないのでしょうか。
担当課	現時点では、民間事業者が、独自でやられているのは存じています。そこに限定しての補助金というのは、今の時点ではなかなか難しいところもありますが、将来的には検討する余地はあるかもしれないです。
委員	タクシー券もいいですが、例えばある程度外来客が多い病院だと、江戸崎の街中にある病院とか、いろいろありますよね。そういうところなんか、ほとんど家族が送っていかないとけない状況で。ここをもうちょっと、どこかで何かアイデアを出していただけると。
委員	それはさっき言ったような、将来デマンド方式を採るとかいうような部分で。先ほどの意見は、病院とタイアップするような部分のことだと思います。
担当課	今はどうしても路線バスの維持というところに注力しているのが現状ですが、新しい運行システムに変更する際に、その辺も含めて検討していきたいと思います。
委員	どこでもそうなんですけど、走っていれば乗らないかもしれないんですけど、最初に廃線になってしまうと、「何でうちのところだけ」と言う。
委員	実際に、路線バスに本当のお年寄りが乗っている姿を見たことはありますか？
担当課	定期的に乗られる人はあります。
委員	バス停なんかを見ていると、シニア世代、70代ぐらいの方までは乗っておられるお姿はもちろん、本当に80代、90代の人。東京辺りだと、その方も乗っていますけどね。
委員	私の街でも、路線バスはものすごく年寄りがいますよ。
担当課	ある程度若い年代からバスに乗り慣れていて、降りた所から目的地まで歩くというような、そういう習慣がそれなりに身に付いている方であれば、ある程度の年齢になっても歩けるうちはあるんでしょうけれども。車で、もうドア・ツー・ドアでやられてきた方は、運転できなく



	<p>なったからすぐ降りてから歩く、そういうような不便さについていけるかという、なかなかそれも難しいところで。本当にお年寄りにはなかなかバスに乗ってもらえなくなってしまうので、そこも、多少不便でも歩いてもらって、健康寿命の伸ばしてもらおうようなところがちょっといければなと思っています。</p>
--	---

2) . 地域交通利用券(タクシー利用券)補助事業 (担当課：政策企画課)

担当課	<p>先ほど説明を一緒にさせていただきましたが、タクシー利用券のほうの助成の事業になります。こちらのほうは、資料のほうで3枚つづりの2枚目の一番下のところにタクシーの利用状況、それからそれに対する補助金の状況が3枚目に載っているというような状況です。</p> <p>タクシー利用券については登録制を採っていきまして、登録される方は年々増えているような状況です。登録はしても、実際に皆さんがお使いになるかというところではなくて、安心のためにいったん登録はしておいてという方もおり、利用される方は、先ほどの資料にあるように、今現在、延べで2万弱というような状況になっています。タクシー利用券のほうについては、タクシー事業者の存在する場所にちょっと地域的な偏りがあるというのがありまして、市内全域どこでも同じように利用できるかというところ、なかなかそこまではいっていないというような課題はあります。</p>
委員	<p>制度的には幾らまでの何回とか。</p>
担当課	<p>このガイドマップの一番後ろのページに、タクシー利用券の利用の仕方のほうを載せていきまして。一応、少なくとも自己負担で300円は払っていただく。あともう1つのルールとしては、市のほうの補助額は上限が700円というふうになっています。ですのでこの例を見ていただくと、800円の運賃がかかった場合には、300円は最低自己負担していただいて、残りの500円が市のほうの補助と。2000円の場合には、市の補助は上限が700円ですので700円は市の補助で、残りの部分が自己負担というふうになっています。</p> <p>資料1のほうを見ていただくと分かるように、平成21年2月からこのタクシー利用券を始めているんですけども、もともとのこのタクシー利用券が始まったいきさつが、公共交通のバス停まで遠い方と近い方がおられて、遠い方はバスに乗らないというところから、そういったバス停まで使ってもらおうであったり、結節点、バスがそれなりに出ている所まで使ってもらおうというような目的で出したんですけども。当然利用者からしてみれば、目的地まで使うのがバスですので、ほとんどがそういった使われ方である。</p> <p>現状、このタクシー利用券の使われ方で一番多いのが、やはり2000円以下の運賃の利用がほとんどになります。長距離を乗られても700円の補助になってしまうので。2000円ぐらい以下の利用なので、主にタクシー事業者がある江戸崎地区の方が実は多くて、本当に1000円から2000円間の利用が一番多いという状況です。</p>
委員	<p>何枚でも使えるんですか。</p>
担当課	<p>一月当たり8枚が目安で配布しています。週1回の往復にそれぞれ1枚ずつ使うという計算ですので、4月に申請してもらえば、1年分丸々で96枚発行になります。これが例えば1月になって申請すると、1月から3月までの3カ月×8枚で24枚と。毎年4月更新ということになっています。</p>

委員	タクシー会社は迎車料金を取るんですか。
担当課	はい。一応ルールですので、迎車料金を取ります。ですので、場所によっては当然、迎えにきてもらうだけでもこの700円分を使ってしまうという場所も出てきます。
委員	うちの親戚のおばあちゃんは、1人暮らしをされていて、市でタクシー券をもらえるから便利だよと言っているんです。遠いと2000円以上とかになっちゃうから、そうすると往復で5000円近くになるので利用できない。
担当課	地域によってだいぶ使い勝手が悪いので、そこをもう少し使い勝手がよいように検討できればいいんですけど、今のところはそのような現状の使い方です。
委員	東タクシーは東地区にあるんですか。
担当課	そうですね、東地区にあります。
委員	それ以外は江戸崎ですか。
担当課	大利根タクシーが新利根の角崎にあります。桜川地区にはタクシー事業者がなくなっちゃった。
委員	これは、登録されるデータは65歳以上ですか。
担当課	年齢制限はなしです。ですので、本当に0歳児の赤ちゃんでも、その分はもらえますので。例えば、生まれたばかりでお母さんがまだ車を運転できないというときでしたら、2人分を申請してもらって、もし2人で乗っていくのであれば、それぞれで1枚ずつ使ってもらってということができるので、最大1400円まで2人で乗っていただければ。
委員	乳幼児でも1枚になる？一応、免許を返納したとか、持っていないとか、何か条件がありましたよね。
担当課	はい。何らかの理由でなので、例えば、けがをして3カ月間運転できないという場合でも発行できます。これはもう基本的に、車を持っている人はタクシーなんかを利用せずに車を使うということが前提で、成り立つ制度ですので。
委員	もう周知されていますか？
担当課	もちろん、はい。江戸崎エリアの方は結構使っていただけているんですけど、それ以外の方は、登録までをしていただいている方は結構いるんですけど、実際にお使いになるのにはちょっと金額が高くなってしまいますので、利用状況はあまりよろしくない。
委員	知っていても、使えない。
委員	ある日突然ぎっくり腰で腰痛になったときに、タクシーでしか病院に行けなかったんですけど。そういうときも本来は使えたんですね。
担当課	使えます。
委員	3週間仕事に行けなかったんですけど。
委員	でも申請は、地区センターとかに行かないと駄目なのですか。
委員	それが無理なんですよ。
担当課	郵送での申請も大丈夫です。

委員	郵送もできるんですか。
委員	だから、そういう突発性な方は至急必要なわけですよ。
担当課	市の対応としては、電話をいただいて、郵送で申請が可能なんですけど、それでも何日かかかってしまう部分があるので。ただ、代理の方での申請は可能なので。代理の方に申請してもらった場合は、その人に渡すわけにはいかないの郵送になってしまうんですけど、それだと多少時間が短縮できる。
委員	他市町村なんかでもこういうサービスはやっているんですか。
担当課	このタクシー利用券はそんなに多くないと思います。
委員	ないんですか。そうすると、補助額はだいたい700円前後ぐらいという感じなんですかね。そんな高額はちょっと市としても無理だけどね。
担当課	初乗り程度という意味で700円の設定にしている。
委員	県北のほうだと1000円前後なんじゃないか。何しろ1000円では届かないみたいな所が多いから
委員	さっきのバスみたいに、補助金を距離制にしたら。700円じゃなくて、1000円ぐらいにしますよと。
委員	それも方法かもしれないです。この辺のタクシー事業者が頼りにする収入源にするんだったら、問題はやっぱり迎車料金です。水戸は競争が激しいから、迎車料金を取らないタクシーがいっぱいある。
担当課	市のタクシー事業者も、皆さんが大きいタクシー事業者じゃなくて。この東タクシーと大根根タクシーに関しては、車が2台で運転手が2人で、本当にそれぐらいでやっているの、あまり長距離出してしまうと電話も出られないということで、苦情の電話をこちらのほうにいただいたこともあるんですけども。
委員	神崎駅に止まっているタクシーはそうですか。
担当課	神崎には迎車等では行くんですけど、止まてはいられないみたいですよ。タクシーはやっぱり地域で縄張りがあるらしくて、なかなか他の地域には駄目らしいです。
委員	マイクロバスみたいな形のタクシーがあるんですか。
担当課	合同ハイヤーは、たぶん10人乗りぐらいのワゴンタクシーを持っています。
委員	何かもうちょっと利用できる方法があるといいですね。
担当課	そうですね。今それを公共交通会議の中で議論しています。
委員	あと、コスト削減を考えたら、シェアという考え方もちょっと入れたほうが良いような気がします。タクシーを1人で使うのはもったいないですよ。
担当課	そうですね。どうしても個人個人の話になってしまうんですけど、使い方として、近所の人とみんなで集まればそれだけ多く使えますよというお知らせはしています。
委員	今度の公共交通体系の会議の中で、タクシーと併用とかいろんなことを言うてくると思うので、併せてトータル的に乗りやすいよう、利用しやすいように、700円の補助をいただいても、年金生活でタクシー代を二、三千円出すというのはちょっときついと思うんです。相乗りといっても、な

	かなか田舎の人とかは行く場所が違うから。よろしくお願いします。
委員	<p>運輸事業の制度の縛りも一部で始まっているところもあるが、集落の中で自分たちの車で送迎をする。会費を徴収して、会費はガソリン代と維持経費だけでやっている。</p> <p>そういうところは、ちょうどリタイアされた方々など時間に余裕のある方がやっていて、ドア・ツー・ドアで、評判いいらしいけど。その人たちが今度呼ぶようになったときに、運転している人がいるのかという問題が、今のうちから出ているんだけど。</p> <p>そういうのもう、自分たちで解決し始めているところも結構多いですよ。逆に言うと、そういうところに行政側が働きかけて、そういうための車を買ってやるとか、そういう制度を。それは何に使ってもいいけど、最低1日に1回、2回は運行してねとか、そういう方法もあると思います。</p>
担当課	頑張ります。
委員	やっぱり地域と連携すると、新しいこともできると思います。
委員	市の有償サービスを聞かれるんですけど、あれはやっぱり要支援とか要介護とかの部分がないと、利用出来ないんですよ。
担当課	そうです。
委員	比べると、値段的にどうですか。有償サービスの実態が分からないんですけど。
委員	介護タクシーのことですか。
委員	福祉で有償サービスとかをやっているじゃないですか。病院送迎とかそういうやつで。例えばある程度値段的に安かったら。動ける人はそんなに要介護とかにはならない人なんだろうけれども、要支援ぐらいだったらある程度自立している人が多いと思うので、すみ分け的な部分で。
委員	四国でやっている地域バスは、朝の高校生の通学からやっています。
委員	それはやっぱりワゴン車みたいな。
委員	いや、後ろの3列目かに車いすが乗れる形で。だから2列目も大丈夫なのかな。2列目がないのかな。普通に後ろも運んでいるらしいよ。高校生の通学から始まる。
担当課	高校生はいろいろ難しいところがあって。市内には江戸崎総合高校しかなくて、それ以外のところは、もうあらゆるところに市外地に向けてなので、全部を拾い切れない。当然、スクールバスを出している学校もあるんですけど。特に千葉県側のほうに行っている学生は、バス路線がないところがほとんどで、鉄道駅までの送迎。
委員	役所が全てカバーするのは無理だから、最低限のカバーをちゃんとすればそれでいいと思う。「私はどこに行きたい」と言われてもそれは。

～行財政分野～

3) . 愛しき稲しき推進事業 (担当課：シティプロモーション推進室)

事務局	引き続きまして、秘書広聴課の愛しき稲しき推進事業のほうの評価をお願いしたいと思います。それでは職員の紹介のほうを糸賀課長のほうからお願いいたします。
担当課	こんにちは。お世話になります。秘書広聴課シティプロモーション推進室、室長です。どうぞよろしくお願いいたします。説明員は係長です。

担当課	よろしくお願ひいたします。
委員長	じゃあ、説明をどうぞ。
担当課	<p>はい。愛しき稲しき推進事業ということで、こちらの推進室で人口減少対策の柱の1つとして、28年度、昨年度から開始されたものです。稲敷市のシティプロモーションの目標ですが、昨年度定めたアクションプランがお手元にお配りされていると思いますけれども。2ページの下のほうに3行ほどありますが、稲敷市に関する人々、方々に響く情報発信をして、市に誇りや愛着を持っていただき、市を好きだと自発的に言ってもらえる人を増やすことを第一としております。</p> <p>昨年度は職員研修を2回、そして若手4グループのワーキングによる提案。お配りいたしましたジャンピング・プレジデントカレンダーなどの提案もありました。そして向こう5年間の計画をアクションプランとして作成しております。動画の作成、アップ、フォトプロップス。フォトプロップスというのは写真の小道具といいまして、写真を撮るときに、「稲敷市が好きだ」みたいなのを一緒に持っていただくような写真になります。あるいは、広報紙での特集を開始しております。</p> <p>今年度は、既に庁内の推進委員会、各部から出していただいた推進委員会を組織し、稲しき家族ホームページの改善ですとか、おこし協力隊の協力によるジャンピング・プレジデントカレンダーの作成、イベント時のフォトプロップス写真撮影、広報紙の「私たちの稲敷」の特集、今度もう少しで出しますが、広報増刊号の発刊などを予定しております。</p> <p>将来構想といたしましては、全ての職員が広告塔となって、全ての分野、それぞれの立場でシティプロモーションを念頭に行動して、情報発信をしていただくこと。そして、伝えるだけでなく、外部の方々の協力者・理解者を増やして、市民の方々に「稲敷市、いいですね」と言ってもらえることも大事かと思っております。説明は以上です。調査票は昨年の方の状態ですが、ご覧のとおりになります。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
委員長	<p>この頃、結構いろんな形でシティプロモーションが始まって。力の入れ方はいろんな分野で、映像関係に力を入れていたりしますし、映画とか、撮影のあそこにもものすごく力を入れているところもあるんだよね。あれは、思わず人も来るんですね。本当に思わず人が来る。水戸に30年ぐらい出ている公園があるんです。これは「テルマエ・ロマエ」なんですけど、お風呂に入る、あれで使われたんです。その土地はちょっと使いようがなく、結果的に公園にしよう。ただ普通の公園に使っても面白くないから、イギリス式の公園にしよう。造ったんだけど、誰も利用しなかったんです。</p> <p>ところが、映画で使われたらそこにわんさか人が来るようになって。ここ3、4年、他でもそこがまた出るようになって、ますます人が来るようになるのか。何かどこかで何かで気に掛けるみたいな話があって。だから、そういうものを売り込む目の付け所が職員の間に出てくると。撮影で有名なのは昔の浄水場、昭和初期に造った、浄水のための大きなポンプもまだ1台か何か残っている。そういうところが、戦隊ものとかいろんなものに使われて。そこをわざわざ見に来る人がいっぱいいますね。</p> <p>典型的なのは大洗のガールズ&amp;パンツァー。あれは、大洗の人が割と勘が良かったというか。2010年にコミックマーケットの地方版というのが5年に1度あるんですけど、それを水戸でやったんです。私が会長をやりましたが、街が動かなかった。事業者がちょっと動いたんです。焼酎</p>

を造ったりだとか、納豆を作ったりだとか、乾燥芋を作ったり。お菓子屋、そこは飛躍的に営業が伸びた。今もその手法をそのまま使って、伸びているんです。

街の行政はほとんど動かなかった。そのときにちょっと端っこで参加していた大洗の人たちが始まったんだね。ちょっと、やっぱりどこかのきっかけで、こういうのは始まる。そのときに、ここの中でも何ページかに書いてあったけど、5ページぐらいに「市民と市職員一人ひとりが」という、ここですよ。茨城県の一番悪いところは、自分のところの自慢をしない。やっぱり自分のところの自慢をする、うそでもいいから自慢する、この気持ちがないとシティプロモーションはできない。

「いなしき」という市名は、茨城県内では何となく「稲敷」と分かるけど、全国的な知名度はないんじゃない？この漢字をみんな「いなしき」と読むのか、という、そういう感じ。鹿行（ろっこう）に比べると簡単なんだけど。これは逆に難しいほうが売りは簡単なんです。簡単に読めるよりは、難しく、読みづらいところが、プロモーションはしやすいんですけど。だけど、そういう意味で鹿行の人にも別に自慢する気がないから、あまり。

やっぱり、このところをどうひっくり返すかです。そういう気持ちにさせるには、昨日もちょっと話になっていたんだけど、外から「稲敷、すごいね」というのが1個入ってくると、ちょっと変わるんです。その事例は、例えばカボチャのGI認証とかいうのが、稲敷の人は、稲敷の江戸崎カボチャはすごいよとか言っていたかもしれないけど、本当にすごいなんて、たぶん誰も思っていないんだよね。単なるカボチャだと思っているだろうから。そこのところが、GI認証があったよというだけで、何となく作っている人も誇らしくなるし、売る人も誇らしくなる。

そういうのを何か見つけて、女性がつつくそこをどうつくるかですよ。なかなか、口で「広告塔として活躍しろ」と言うのは簡単だけど、そうならないんだよ。やっぱり外で十分に記事が扱われると、それで変わってくる。水戸で芸術館を担当したんですけど、そのとき全体の意識を変えてもらうのに何をやったかという、やっぱり取材に丁寧に答えてきちっと記事にしてもらって、それが記事になったというだけで終わらせない。その記事になっものは役所の職員に徹底的に配って読ませる。そうなんだというのを植え付けさせる。

そうすると、何かそれまで「勝手にやってよ」とか言っていた職員が、ちょっと言葉の端々にそういうのを使い出す、そういうのをどう持っていくかだと。それはテレビの取材でもいいんだろうし、何か新聞とか、いろんな雑誌がありますよね。

これをどういうふうに職員一人ひとりに。庁舎の1階で見たけど、茨城県で稲敷いなすけが1番で、全国で8番目で、みんなが頑張ってる毎朝必ず入れているのかなとか思いながら入ってきたんだけど。それも大事ですよ。それも大事。やっぱり1番にならなければ駄目。8番では。きっと1番と8番の距離はものすごくあると思うんだけど。なった途端に世の中が変わる。

ぐんまちゃんなんて誰も知らなかったよね、本当に。あれで群馬県の人のもものすごく頑張ったと思う。群馬県のショップは歌舞伎座の真ん前、交差点の角なんだよ。ほぼ常駐だよ。出てくるわけよ、銀座で、みんな、東銀座の角に。みんな「ぐんまちゃんだ、ぐんまちゃんだ」と言って。群馬なんて何でもない。でもあれだけでイメージががらっと変わる。群馬に愛着も何もみんな持っていないはずなのに、誰でも、ぐんまちゃんを知っている。あそこだよ。

	<p>稲敷いなすけが1番になったときに、稲敷の江戸崎カボチャがどうでこうでというのは、全国中にみんなば一つと分かるわけ。それをやらないと駄目です。8番じゃ駄目。なかなか難しいと思うけど。</p> <p>だから、ぐんまちゃんはきっと県庁の職員だけじゃないと思うんだよね。何か関連業界だとか市役所だとか、みんなでやっただろうというので、何となくいろんなところでみんながやって、3位になって1位になってみたい。そうなってくると、全体がば一つとまとまってくるみたい。何をきっかけにするかというのをつかまないといけないんだよね。</p> <p>水戸、県北はだいたいもう「茨城」で売らない。それぞれの市町村の名前で夢中になってしまう。どれをきっかけにするかははっきりターゲットを決めて、3年ぐらい集中的にやる。フィルムコミッションみたいなのに徹底するのか、いい景色を自分たちで見つけて、季節ごとのいい景色を徹底的に売り込んで、それで天気予報をやらせたり。天気予報も一生懸命いろんな所に行っていますよね。</p>
委員	ひたちなか海浜公園もテレビに出ていました。
委員	みんな慣れていないから自慢できないよ、きっと。でもそれを普通に自慢できるように、研修で、ある種の「自慢をしていないじゃないか」というぐらいにやらないと駄目。研修は覚えるとか何とかじゃなくて、やっぱり人間を変えるぐらいの研修をしないと駄目よ。そういうので、何を変えて。そういうのを繰り返していくと、みんなの間に共通項目として、これとこれとこれはちゃんと売ろうとか、何かそういうのが出てくると思うんだよね。
委員	今、話にあったフィルムコミッションというのはある？
担当課	はい。
委員	活動的にというかPR的には結構やっているんですか。
担当課	フィルムコミッションは、商工観光課のほうでやっております。
委員	担当が違うんですね。
担当課	<p>観光を目的としたほうでだいぶ整備されていて、そちらでやっています。この前はフィルムコミッションの関係で、研修にもこちらから行っていただいたり。今週、1カ所大日苑という所で撮影があったみたいです。</p> <p>商工観光とも連絡を取りながら、どうしていったらいいのかというところをやっているような状況です。</p>
委員	役所は縦割りを崩さないで駄目だね。もうシティプロモーションは、みんなでどんといくみたいな。
担当課	そうなんです。何でもですから。
委員	推進する立場で、また違う部署だとなかなか。
担当課	ですから、理解しながら、情報を共有しながら価値のあることを一緒にやっていかないと。
委員	稲しき家族のホームページがありますよね。そこでいろんな画面、例えば、西代の先のほうの、45年前の古い300円の自販機で焼き肉が出るとかいう、お笑いの人2人が来て、食べるとおいしいというのが出て、ありますよね。ああいうのは、市のほうで撮影したやつとかではないんですか。あれはいろんな画面が出てきているんですよね。たまたま最初にやったやつがその焼き肉で。焼き肉の自販機というか、お弁当自販機屋だった

	んですけど。そうしたら何かこういうのがあるんだよと、おいしいとか。
担当課	たぶん市で撮ったのものとは違うとは思んですけど。
委員	違うんですね。じゃあ、それをそこに引用しているという。
担当課	そうですね、利用したお客さんとかだとは思のですが。実際、自分たちも携帯に写真が撮ってあって、それをちょっと市の Facebook とかそちらのほうへ上げようと思って、今やってはあるんですけど。
委員	あれはよそのやつなんだ。
担当課	はい。地域おこし協力隊の作った動画が、稲しき家族にはだいぶ入っています。
委員	やっぱりいろんなやつがアップされているということですね。だから画像はすごくいっぱいあるんだけど、市で撮ったような感じではないとか、ちょっと見受けられたので。
担当課	そういうふうに、隠れた名所というのか分からないんですけど、今その販売機自体が日本に2つしかないという話なので。
委員	そう。曲淵の古民家の喫茶店の PR とかもありましたもんね。
委員	インスタとか Facebook とか。市の Facebook に、どのぐらいの人がぶら下がっているのか。
担当課	ちょっと調べないと分かりません。
委員	Facebook は使いようで、要するに 50 人自分のお友達がいるところには、50 人に行くんだよね。
担当課	行きますね。
委員	そうしたら、その人が 50 人ずついれば、また 50 人行くんだよ。
担当課	50 人に。そうですね。
委員	だから、市のところに、極端なことを言ったら市の職員が全部お友達で入っていれば、それが市の職員のところから行く。もっと別件でそういうのをいっぱいやっている人のところに稲敷のやつが行くようになれば、そこからまた無限大に広がっていく。そういう方法は、やっぱり戦略としてものすごく持たないと駄目です。インスタもそうだけど。
担当課	そうですね。今、Twitter と Facebook とインスタグラムとで、アカウントもちょっといっぱいあるんですけど、それらを活用してどう広げるかというのをやっぱり検討してまして。
委員	市はみんな作っているんだけど、全然生かしていないよね。もう無理やり、市の職員の一人ひとりがそうなんだと言ったら、そこにみんなぶら下がらないと。それがそのまま、そこからばーっと広がっていかないと。やっぱり市のウェブが入っても、どれだけ稼働するから。作るのは誰でも、カメラ屋でも作ってくれるし、簡単なんだけど。そこから先だよ。
担当課	そうですね。
委員	イベントでいなすけが来ますよね。運動会は来ませんけれども、市のイベントとかで。そうすると、みんな磁石に吸い寄せられるように子どもたちが集まってくるんだけど。そういうイベントにいなすけが来たときに、いなすけグッズを販売するとかはあるんですか。パンプで売っているみたいですけど。



委員	来たときには、販売は今していません。
委員	ポロシャツとかそういう？
委員	いなのですけは市の職員がやっているんでしょう？
担当課	協力隊のメンバーが。女性なんですけど。
委員	<p>そこで協力隊の難しさは、協力隊でやっているから市の職員はいいんだというのが、さっき言った「一人ひとりが」のところに弱くなる部分なのよ。協力隊のいいことと悪いことというのがあって、協力隊がやってくれているからそれでいいと思ってしまっただけで終わってしまう部分があるから。協力隊がいいのか、それとも誰か民間に任せてしまう。あれは市の職員が入ってももったいない。やっぱりいいところは、いまだに市の職員が入っているんだけど、ただ、運動会とかに行ける限り行っている。ひょっとしたら2回か3回も行っている。運動会に行くと、やっぱり小学生は喜ぶんだよね。幼稚園とか保育園にも行く。</p> <p>だからやっぱり稲敷いなのですけが自分らの友達だと思うぐらいに、子どもたちがわーっと思うような。もう2体でも3体でも1日動いてしまう、同じ場所じゃなければ。ミッキーマウスだって世界中で何十体も動いているわけだから。同じ場所に2匹は来ないけど。</p>
担当課	そうですね。
担当課	もっぱらは地域おこし協力隊ですが、市の職員で商工観光課、そして政策企画課でも、後ろに座っている事務局が時々入っています。運動会なんかもそうですが、やっぱり販売の会社なんです。会社がイベントに来ていただけるようなときは許可を得て。
委員	そのかばんなんですけど、ちょうどこれぐらいですよ。1人の人が持っていたら、かわいいので、「どこで売っていたの」とみんなそろって買うようになってしまっただけで、まとめて買うぐらいになってしまったので。入りやすいというのと、いなのですけがかわいいというので、すごく。「こういう形もあったの？」と、さらに違うバージョンのとか。今、歩くと、健康増進課でいなのですけの何かをいただけますよね。かばんもいただけるんですよ。
担当課	ウォーキングで。
委員	あれも欲しいから頑張って歩いている人もいます。いなのですけのバッグはいろんな顔のものがあってかわいくて、意外と好評だったので、ショップはパンプの中だけなのかなと思って。
委員	当然、もうそのグッズも何も全部そこでという形で、徹底してやっちゃったほうがいいですね。
担当課	確かにそういう、茨城県でゆるキャラキャラグランプリで上位になれるのであれば、そういったものも活用して、そのグッズなんかも含めてもっともって活用とか、やり方があるのかなという感じはしますね。
委員	実際にやっていますよね。
担当課	はい。許可を得て、もちろんやっているわけですから。そういった方がもっと増えるのも一つかもしれない。
委員	そうですね。
委員	役所がやると限界があつて。ねば〜る君だとか、船橋市のふなっしーとか。

	<p>あれは、要するに規制がないから好きにやっちゃっているわけで、役所がやっている、入る人が代わるから声を出せないとか、何かいろいろあるけど。もう任せてしまえば、それで。そのほうがずっと人件費に使うよりも安い。あと2分。</p>
委員	<p>プロモーション推進のほうに関係ないんですけど、秘書広聴課の方がみえているので、広報係のほうだと思うんですけど。ホームページがありますよね。この前にやった公共交通関係で、ちょっと前にホームページで「コミュニティバス時刻表」とか「コミュニティバス」というふうに入力して、見つからなかったんです。そういうふうに名称を検索欄に入れてやってもヒットしなかったんです。出てこなくて。いろんなことをやったんですけど、出てこないんです。</p> <p>しょうがないから、各課の一覧がありますよね。そこで政策企画課で開いてどんどん下げていって初めて、公共交通の今日いただいたこういうような部分が出てきて、そこからさらに下げてコミュニティバスが出てくるような感じなんです。よそだと、「コミュニティバス時刻表」とかそういう単語を入れてしまうとすぐヒットするんですけど、稲敷市のホームページはヒットしないので、</p> <p>そこら辺を後で課長のほうから確認をお願いします。</p>
担当課	<p>はい。まさにプロモーション、そういったものをお知らせする、あるいは分かっていたかということ。</p>
委員	<p>最初の画面にはこういう「愛しき稲しき」とかが出てはくるんですけど、見たいものというのが探してもすぐ出てこないということ、「何だろう」になってしまう部分が。</p>
担当課	<p>検索するのに、ヒットする、完全一致じゃなくても出るように緩めにするとか。検索機能を調査して改善していったらということだと思います。</p>
委員	<p>仕掛け人なんてお考えですか。私たちはフォーラムを行ったときに、仕掛け人を呼んだんです。ひこにゃんとか、あとは漢検とかを仕掛けた人を呼んで講演会をやったんです。割とお金がかからなくて人気があるらしいので。いかがでしょうか。</p>
担当課	<p>「仕掛け人」できっと調べられるかもしれませんがけれども。ぜひ参考にさせていただきたいと思っています。</p>

#### 4. 評価結果のとりまとめ

#### 5. その他

委員長	<p>それじゃあ、今日のところはここまでにして、評価シートを出して終了です。どうもご苦労さまでした。</p>
担当課	<p>どうもありがとうございました。</p>
委員長	<p>結果はあすの夕方以降にいただいて、明日もどこまでいけるかは分かりませんが、時間がなければ翌週にまとめて整理をするということで。今日はシートを提出して終わるということで。また明日、よろしく申し上げます。ご苦労さまでした。</p>

以上